

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372500185		
法人名	医療法人 徳寿会 池田医院		
事業所名	グループホーム わかば		
所在地	岡山県岡山市南区彦崎2801-1		
自己評価作成日	令和 4 年 7 月 20 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372500185-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 4 年 9 月 13 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あたたかな家庭にいるように利用者の皆様が、その方らしくのびのびと…そして生き活きと日常生活を送ることが出来るよう支援に努めています。近年では新型コロナウイルスの影響で地域交流も思うように行えない状況ではありますが、毎月楽しめる行事を利用者の皆様と考案し実行しています。ご家族との面会も依然として実現できずにいる為、オンライン面会・越越し面会の推進を継続しています。毎月の「わかば便り」で利用者様の状態をご家族の皆様にも知っていただく機会を設けています。また、職員は毎月行われている様々な委員会や研修会・勉強会に参加し、自身が得た知識を共有することで職員資質の向上にも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々の会話や外出支援の際、利用者をつくりと観察し、利用者の意見や意向をしっかりと汲み取りながら、出来るだけ利用者の生活に寄り添った支援ができるよう、日々実践しているので、利用者の表情も豊かであり、落ち着いて自立した生活が送れている。また、気持ちよく職員全員で協力し合い、介護に打ち込める事業所であり、なんでも言い合える雰囲気心地よく、職員全員で情報共有しながら働きやすい職場環境を作り上げている。そして、調理場が共有ホールに面しており、食材を刻む音や炒める音、コトコト煮込んでいる音などが共有フロアで寛いでいる利用者の五感を刺激し、心身の力の維持や向上に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	代表者・管理者より、入社時にグループホームの理念について職員に伝え、印刷して渡して意識付けを行っている。また事務所には掲示している。	事務所に理念を掲示し、職員に周知している。法人理念は常に携帯し、日頃から見返している。また、管理者会議の中で振り返った内容を事業所内で伝達している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	恒例としていた学区内の小中学生との交流やボランティア慰問・運営推進会議などコロナ禍で実施できていない。運営推進会議は書類会議の形態で実施している。	コロナ禍前は、地域の夏祭りに参加したり、中学生の職場体験などを受け入れていたが、全て中止となっている。散歩途中に地域の人と会話したり、旬の野菜をもらったりしながら、繋がりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症ケアについて、実践している困難な事例など報告しているが、もっと幅広い方々への地域貢献という意味では不十分である。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止対策のため書類会議を実施している。	2ヶ月に一回、隣接する3事業所の管理者が集まり、書面会議を開いている。また、議事録を町内会長や市担当者、民生委員などに送付し、労いの言葉やコロナの注意喚起・感染対策のリーフレットなどを貰っている。	家族への議事録送付に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市の職員に相談したり指導を受けている 包括支援センターとも連携を密にしている。	制度や生活保護、コロナ等について分からない・聞きたいことがあればその都度、市担当者や保健所、福祉事務所に連絡しながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行われる身体拘束等適正化委員会に参加し正しいケアの実践に役立てている。	法人全体で行われる身体拘束等適正化委員会に出席した担当職員が資料等を事業所に持ち帰り、伝達している。また、委員会に参加しているメンバーが持ち回りで講師となり、年1回研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行われる虐待防止委員会に参加し、正しいケアの実践に役立てている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い、資料配布し、ケアの実践に役立てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明したあと、質問、疑問などに答え、納得した上で同意を得て、サービスを利用している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見、要望などいつでも受け入れできるようにしている。また、意見などの申し出があった場合は、早急に対応する努力をしている。	窓越し面会時や日々の会話から意見等を聞き取っている。出された意見等は、外出支援(散歩や草抜き、一時帰宅など)に反映したり、主治医や統括管理者に相談しながらスピーディーに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と共に、毎月1回ミーティングを開催し、参加職員が意見交換しやすいようにしている。	年2回、個別面談を行っているが、職員に直接声かけして意見等を聞き取ることもある。出された意見等は、有休取得や労働時間などに反映している。また、甘いもの好きな利用者に対して、主治医と相談しながら工夫して提供するなど、職員の意見が積極的に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日職員と同じように勤務することにより、職員一人一人を把握しており、個々の相談にも対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場全体の課題を共有できる機会の設定、仕事上の問題点を話し合う機会を作ったり、スキルアップ研修の参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流はできていないが、外部の研修時に交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、生活歴を参考にしながら、ホームでの生活をどのように過ごしたいか等、意見を聞き、暫定プラン作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に、介護について困っていることや、要望などを聞いてから、暫定プラン作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に状態を詳しくお聞きし支援を検討している。地域連携より他のサービスについても情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、日頃から介護職員としてだけでなく「家族として」「友達として」一緒に作業したり、話し合ったりして共有の時間を過ごすようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会もままならない現状ではあるが、「わかば便り」と担当職員からの一筆箋により近況をご家族に伝えるようにしている。「家族だから出来ること」「職員だから出来ること」それぞれの立場から利用者様の望むケアの共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでのなじみの関係の継続は必要なことだと把握しているが、直接面会や外出が実現できていない現状。ご本人の要望も傾聴しオンライン面会など今できる対応での支援を継続したい。	オンライン面会(毎月)している利用者をサポートしたり、グーグルマップを活用して思い出の場所を振り返ったりするなど、馴染みの人や場との関係が途切れない様に工夫しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活内での作業をはじめ、集団レクや時には個性に配慮したグループ分けで円滑な関係を保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があったときはその都度対応して支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとに職員で担当者を決め、日頃から関わりを持ち、希望や要望を取り入れ、サービスの改善を努めている。	新聞のちまた欄の作成や医院周りの草取りなど、普段の会話から聞き取った希望等を実践している。希望等の把握が難しい時は、色々な選択肢を提供して選んでもらったり、家族に聞き取ったりして対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人個人の生活リズムに沿ったプランを作成し、定期的に会義を開き、職員全員に状況把握してもらい、サービス改善に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日個人ごとの介護記録に、生活状況や、バイタル、食事量、排泄など記載し、職員全体で現状把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録をもとに、定期的にプランの見直しを行い、家族や本人からの意見を参考に職員で話し合い、次のプラン作成に役立てている。	半年に一回、計画作成担当者がモニタリングを行っており、結果を基に担当者会議の中で見直ししている。また、変化があればその都度、見直ししている。ケアプランには、事前に家族から聞き取った内容や医療面での主治医や薬剤師、歯科医の意見や提案も反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとの介護記録に生活状況や実践結果など記載し、ケアカンファレンスを開き、介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアする上で、困難なことや、問題が発生した場合は、職員で話し合い、家族に意見を求め、問題解決できるよう努力している。コロナウイルス感染防止対策で面会が出来ない為、リモート面会の環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出することも躊躇されるが、近隣にはスーパーや郵便局なども徒歩圏内にあるため、豊かな生活を実現できる社会資源も身近にある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス開始前に、かかりつけ医の確認を行い、ホームに入居されても継続できるようにしている。希望で訪問診療も受けている。	かかりつけ医の継続は可能であり、利用者及び家族の希望を尊重している。主治医(2週間に1回事業所訪問)や外来担当の看護師と密に連携し、意見やアドバイスをもらったり、情報共有しながら、適切な医療を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者全員の状態を把握してもらい、必要に応じて医療的な処置や、相談などを受けてもらっている。又、受診時には情報提供してもらい、担当医に分かり易く説明している。夜間もオンコールにて指示が受けれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には、担当看護師や相談員に状態を尋ね、現状把握に努め退院してからの介護プラン作成に役立っている。退院日については、病院側、家族の都合に合わせて決定している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合や看取りの終末ケアについての指針説明を行い、事前確認書に記入してもらっている。状態変化には医師、看護師より家族に説明を行い、意向を確認しながら支援を行っている。	緩和ケアから看取り支援に移行する 경우가多く、24時間の医療(点滴など)が必要となった場合は、母体のクリニックへ移動してもらっている。年1回看取りの研修を行い、全職員で方針を共有すると共に、利用者及び家族の意向に寄り添った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通じて勉強している。不定期ではあるが消防署の協力で救急訓練を実施したりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器の使用方法や、消防署への連絡の仕方など、職員全員が把握できるように、訓練を行っている。運営推進会議で地域との協力体制を話し合っている。	昼夜想定の下、年2回避難訓練を行っており、利用者も参加している。また、設備会社の協力を得て、消火訓練や通報訓練を行っている。防災及び非常災害時対応マニュアルを整備すると共に、水や非常食などの生活必需品を準備している。	地域住民への参加呼びかけ、消防署の立ち合いに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を尊重しながら、その人に合った言葉かけを心がけている。また、利用者のプライバシー保護の取り組みについてはマニュアルや研修で、周知を図っている。	日頃から聞き取りやすい言葉で声かけし、本人の希望や要望に沿って支援している。また、さん付呼称の徹底、居室ドアの開閉など、利用者の尊厳を守り、プライバシーに配慮した対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を提示するなど工夫して、意思表示、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間割はあるが、職員の都合でせかしたりしないように、個人にあった生活リズムを大切に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理髪店を利用し思い思いの髪型にしたり、衣服の選択を一緒に行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には利用者様のリクエストを参考にメニューを考え、楽しみが持てるようにしている。近日、調理に参加することが衛生面でも難しくなっているが、調理する音・匂いを共感し食事を楽しむにできる工夫をしている。また、野菜の下処理やお盆拭きなど可能な限り協力していただいている。	利用者が食べやすいように調理すると共に、美味しいと思える味付けにしている。また、誕生日には外部からの食材配達を止めて、利用者の希望する物を提供している。下処理やお盆拭きなど、出来る利用者には積極的に参加してもらいながら、食事が楽しみや喜びとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を把握している。個々の機能に応じた形態・好みも把握し一定量の摂取が可能となるように努めている。制限のある方には日々の摂取量も記録として残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は全員に歯磨きを支援している。週に一回コップと歯ブラシも消毒し、清潔にしている。口腔内の状態のチェックも行い、トラブルが発生した場合は歯科受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、必要に応じて介助(誘導・声掛け)を行っている。	排泄記録で個々の排泄パターンを把握し、昼間はトイレ誘導、夜間はポータブルを使用したり、安眠を優先して大きめのパットを使用したりするなど、その人その人にあった排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて確認、排便状態を把握し、個人に合った排便コントロールを行っている。便秘予防に十分な水分摂取や体操を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全ての希望には対応出来ていないが、気持ちよく入浴へ行けるような声掛けをするよう心掛けている。	週二回の入浴を基本とし、清拭・足浴・シャワー浴に対応している。車椅子の利用者も入浴できる様、機械浴を整備すると共に、一対一での入浴介助に努めている。また、入浴が楽しくなる様、季節湯(ゆず湯など)を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣を把握し、状況に応じて援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱に入れて保管している。薬の説明書は個人ファイルに綴じて副作用や用法・容量など確認できるようにしている。服薬時には誤薬のないよう日付と時間帯、名前を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯など個々に役割をもって作業していただいている。余暇活動では、希望に沿った援助を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望を考慮し、家族や知人の協力も得ながら外出の支援を進めていきたいが、コロナ禍でなかなか実現できない。	コロナ禍以前は、近くのスーパーやドラッグストアに買い物に出かけたり、家族や職員と一緒に外出していたが、現在は中止している。朝の涼しい時間帯に事業所周辺を散策する利用者があり、本人の希望に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で日常的とはならないが、ご本人の希望により一緒に買い物に出掛けて品物を選んだり支払いしたりすることは支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、お手紙を投函したり、電話を使用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーにしており、生活しやすいように工夫している。季節感のある壁面を毎月皆で作成し、飾っている。	利用者と一緒に作成した壁画や季節の行事写真をホールに掲示することで季節感を演出し、野菜を刻んだり炒めたりする音が居心地良い生活感を醸している。ソファを2カ所に配置し、一人になれる空間も確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要に応じ席替えをして、気の合う利用者同士で過ごしていただいている。又、一人になりたい時は、ソファに座られたり・居室に戻られたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品などを持ち込んでいただき、個人に合った環境に配慮している。	使い慣れたテレビや衣装ケース、馴染みの家族写真やお位牌などが持ち込まれており、個々に居心地良く暮らせるよう工夫している。また、ベッドの配置は安全面に配慮すると共に、移動しやすいようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、本人の表札・居室番号などを飾り、分かり易くしている。トイレ・浴室にも分かり易いように表示をしている。		